# 第69回日本心臓病学会学術集会。来てごしない。米子市へ

- 会 期 ▶ 2021年9月17日(金)・18日(土)・19日(日)
- 会 長 **▶ 山本一博** (鳥取大学医学部統合内科医学講座循環器・内分泌代謝内科学分野)
- 会場 ▶ 米子コンベンションセンター BIG SHIP 米子市文化ホール

# ●開催方式

現地参加とウェブ配信(リアルタイムライブ配信+オンデマンド配信)・ ウェブ参加によるハイブリッド方式(予定)

# ●ホームページ

http://www.jcc-conference.org/69jcc/



# ● オンライン参加申込を受け付けています!

会期まであと1カ月となり、みなさまにはご参加に向けてご準備を開始されるころと存じます。ご登壇者にはできる限り安心して現地にお運びいただきたく、また、ご参加者にも可能な限り現地にお越しいただきたいと願っておりますが、現地参加、ウェブ参加(視聴)のいずれにも対応した準備を進めております。多くの方にご参加いただきますようよろしくお願い申し上げます。

# お申し込みはこちらから http://www.jcc-conference.org/69jcc/online.html

- ※一次申込期間は8月31日(火)までです。以降参加費は高くなりますので、ご注意ください。
- ※一次申込期間(8月31日(火)まで)にお申し込みいただいた方には事前に名札をお送りします。 感染拡大防止の観点からできる限り事前に名札をお届けしたく、8月31日(火)までにお申し込み いただきますようお願いいたします。

#### 事務局

鳥取大学医学部統合内科医学講座循環器・内分泌代謝内科学分野 〒683-8504 鳥取県米子市西町36番地の1 TEL:0859-38-6517/FAX:0859-38-6519

office@jcc2021.jp

# プログラム「見どころ聴きどころ」

臨床・かかりつけ医セッション 協力: Japan Cardiology Clinic Network /後援: 鳥取県医師会

#### 循環器内科医向け「循環器内科医に知ってほしい非専門領域の話」

- 1) 最近の糖尿病治療薬の使い方:大倉 毅(鳥取大学)
- 2) 循環器内科医が知っておくべき認知症の診断・地領:足立 正(鳥取大学)
- 3) 最近の頭痛の診断・治療:瀧川洋史(鳥取大学)
- 4) 最近の咳嗽の診断・治療 たがが咳、されど咳 : 臼井 靖博 (ゆみのハートクリニック)
- 5)循環器内科医に知ってほしい慢性便秘症診療のコツ:八島 一夫(鳥取大学)
- 6) 心不全緩和ケアの教育システムを考えるー HEPT の運営を通しー:柴田 龍宏(久留米大学病院)
- 7) 最近の睡眠障害の診断・治療:臼井 靖博(ゆみのハートクリニック)
- 8) 心不全のリハビリテーション(仮):木田 圭亮(聖マリアンナ医科大学)
- 9) 腎生理から考える心腎連関:長澤 康行(兵庫医科大学)

## かかりつけ医向け「最近フォローしていなかった循環器の話」

- ※循環器が専門でない先生方が日々の診療で循環器疾患患者をフォローされる際に、是非知っておいていただきたい内容となっております。
- 1) 心不全の診断―ガイドラインのポイント―(仮):大谷 朋仁(大阪大学)
- 2) 心不全の診断 最近の話題―遺伝子診断―(仮): 朝野 仁裕(大阪大学)
- 3) 心不全の治療―ガイドラインのポイント―(仮):絹川 真太郎(九州大学)
- 4) 心不全治療 最近の話題(仮):猪又孝元(新潟大学)
- 5) 心不全の在宅医療(仮): 弓野 大(ゆみの)
- 6) 心不全診療と ICT (仮): 琴岡 憲彦(佐賀大学)
- 7)不整脈の診断―ガイドラインのポイント―(仮):琴岡 憲彦(東邦大学)
- 8) 不整脈診断 最近の話題(仮): 赤尾 昌治(京都医療センター)
- 9)不整脈の治療―ガイドラインのポイント―(仮):野上 昭彦(筑波大学)
- 10) 不整脈治療 最近の話題(仮): 夛田 浩(福井大学)
- 11) 弁膜症の診断・治療―ガイドラインのポイントー:瀬尾 由広(名古屋市立大学)
- 12) 下腿浮腫の鑑別:金岡 保(加東市民病院)
- 13) がん治療と心血管病:赤澤 宏(東京大学)
- 14) 新しい日常における高血圧治療の診断・治療―ガイドラインのポイントー:勝谷 友宏(勝谷医院)
- 15) 冠動脈疾患の診断―ガイドラインのポイントー(仮): 香坂 俊(慶應義塾大学)
- 16) 冠動脈疾患の診断 最近の話題(仮):田邉 健吾(三井記念病院)
- 17) 冠動脈疾患の治療―ガイドラインのポイント―(仮): 阿古 潤哉(北里大学)
- 18) 最近の冠動脈疾患治療の話題(仮):横井 宏佳(福岡山王病院)

(2021年7月8日現在)

# 若手企画

# 「ここがヘンだよ、ガイドライン」

企画者: 末永 祐哉 (順天堂大学)

我々の日常診療は多くのデシジョンメイキングによって成り立っているが、その 1 つの拠り所となっているものに診療ガイドラインがある。現在日本循環器学会からは多くの疾患に対するガイドラインが発行されており、循環器内科のみならず非循環器内科医を含む多くの医師が参考にしている。その一方、ガイドラインはこれまでの臨床的エビデンスをもとにあくまで大きな方向性を決める指針として策定されている背景から、実臨床の中で実際の患者に適応させるときにはそのまま適応できない事、時にはガイドラインの記載が実臨床と合わない、と感じることがあることも事実であろう。

本セッションでは日々の臨床現場において、臨床医が現行のガイドラインに疑問を感じるテーマを2つ

選び、ガイドライン策定の立場、およびガイドラインを参照している臨床医の立場からそれぞれの意見を述べていただき、議論したい。そして従来のエビデンスをどう考えるか、より現在の実臨床に即した推奨はどうすべきか、についてオーディエンスを含めて意見を交わしたい。

## 「循環器疾患の高齢患者に対し治療のwithdraw、適応無しの判断はどのように行うか」

企画者: 渡邉 雅貴 (みやびハート & ケアクリニック) / 岩崎 正道 (兵庫県立淡路医療センター) 本邦では空前の高齢化社会を迎える中で医療費削減が叫ばれて久しい。

一方で実際の医療現場、特に循環器疾患の高齢患者治療においては、過剰な医療が行われていないであろうか。この背景には、患者の希望(ゼロリスクを目指す)や出来高払い制度、新規検査治療への期待、コスト意識の欠如や防衛医療(念のため)といったものが存在する。しかしながら、求められるべきは『医療者と患者が対話を通じ科学的裏付(エビデンス)を有し、患者にとって真に必要で、かつ、副作用の少ない医療』つまり"賢明な選択;Choosing Wisely"である。そこで、今回のセッションでは、循環器疾患の高齢化治療における"賢明な選択;Choosing Wisely"を明確にするため、薬物治療(高齢者への DOAC 投与や心不全標準的治療の減薬)と、非薬物治療(高齢者 AS における TAVR非適応)といった斬新な切り口で、魅力的な論客と共に、問題提起にとどまらず解決型のデスカッションを展開します。日常臨床でのわだかまりを科学的に理解し、明日の診療へ feedback ができる 90 分間となっておりますので、是非、皆様のご参加と活発な議論をお待ち致しております。

# 「高核心に迫る心不全薬物治療の真髄」

#### 企画者:木田 圭亮(聖マリアンナ医科大学)

新時代を迎えた日本では、心不全の薬物治療も新薬の登場で新時代を迎えることになります。この 10 年、臨床心不全は急性心不全のクリニカルシナリオ、Nohria 分類、多職種介入の心不全チーム、新規水利尿薬トルバプタンなどで脚光を浴び、2018 年 3月に急性・慢性心不全診療ガイドラインの改訂を筆頭に 2020 年 3月に心アミロイドーシス診療ガイドラインまで、現状の日本の心不全に合わせたステートメントやガイドラインが立て続けにあり、心不全に関する診療が大きく変化しました。

一方で、新薬の開発や治験を含めた創薬は膨大なコスト、時間、労力をかけてようやく日の目を見るわけですが、発売後は臨床医が臨床研究を通じてエビデンスを構築していきます。しかしながら、どうしてもエビデンスと実臨床には乖離が生じるわけで、実臨床でその薬剤を日本らしく上手に育てていく、育薬という作業が、手にした新薬がより強力な治療手段になってくれることでしょう。

本企画では、ただ単に薬剤が効いた、効かないということではなく、多方面からの視点で、心不全に関する薬剤について、その薬剤のストライクゾーンとは何か、その薬剤を使う意義を考える時間と場を、ディベートを通じて提供していきたいと思います。

#### 「なぜ臨床医が基礎研究をするのか」

企画者:清水 逸平 (新潟大学) / 野村 征太郎 (東京大学医学部付属病院) なぜ我々は基礎研究をするのか。その意義や課題について実体験に基づき大いに演者に語っていただく。サイエンスのパートのみでなく、医局や研究室、国内外の学会及び研究会、海外留学等でのエピソードや出会いも紹介いただき、一人でも多くの若手が基礎研究に興味を持つような熱いセッションとしたい。

#### 「循環器医のキャリアパス~仕事の流儀と人生の道標~」

企画者: 奥村 貴裕(名古屋大学医学部附属病院) /本田 怜史(国立循環器病研究センター)世界に類をみない高齢社会の中で、循環器疾患を抱えた患者は急増している。同時に、循環器医に求められる役割も多様化しており、アイデア次第で、さまざまな活躍の場が期待される。このセッションでは、基礎研究医、医系技官、画像専門クリニックの開業医、聴診器開発会社の起業医、製薬会社勤務医など、ご活躍歴のある先生方に、自らの人生の分岐点、仕事の流儀、後進に送るメッセージなどを紹介いただき、循環器医のキャリアパスについて双方向的に議論したい。特に、新しいことにチャレンジしたいと思っている循環器医、将来的ビジョンが描けず困っている若手~中堅の循環器医に積極的に参加し、議論していただきたい。時代のニーズを読み、新たな道を開拓された先駆者たちの遺伝子を感じ、医師人生の道標としていただければ幸いである。





#### 鳥取でしか味わえないの幻の逸品「ばばちゃん」

ばばちゃん(学名:タナカゲンゲ)の愛称で親しまれている、 水深300~500mの日本海に生息する魚です。

沖合底曳き網漁業で漁獲されますが、昔はその姿形から売り物にならないと市場に出回らず、漁師のあいだだけで食べられていました。近年その味が評判となり、今では岩美町(鳥取県東部の温泉地)の特産品になっています。

ばばちゃんは、顔に似合わずなかなかのおいしさ。くせがなく 淡泊な味です。甘酢あんかけや刺身、鍋、煮物といろいろな食 べ方が楽しめます。